

だがしや楽校 @ 発祥の地

にちじ：2010年11月3日（水曜日）13:00～15:00

ばしょ：駄菓子屋“はじめや”前（山形市南一番町）

報告者：山口充夫（だがしや楽校オフィシャルコーディネーター）

“第4回：未来を築く子育てプロジェクト”（主催：「未来を築く子育てプロジェクト」実行委員会 協賛：住友生命保険相互会社 後援：厚生労働省）の“子育て支援活動の表彰”部門において、最高賞である“厚生労働大臣賞・未来大賞”を“だがしや楽校 だがしや倶楽部”（代表：阿部等さん）が受賞しました。

さて、審査過程において現地視察していただいたのが、ここにご紹介します“だがしや楽校@発祥の地”であります。“だがしや楽校”が認められたことについては身に余る光栄であると共に、言葉では言い尽くせないほどの喜びでもあります。心より感謝申し上げます。（山口充夫：だがしや楽校だがしや倶楽部ラジオ部・部長）

2010年11月3日（水曜日・文化の日）山形市の天気：曇り時々雨 日も差す 午後曇ったり晴れたり夕方一時雨

《はじめに》

いつもは、山形県内はもとより全国各地で展開されている“だがしや楽校”を取材し、レポート記事を作成しては、インターネット等を通じて発信したり、“だがしや楽校”について講演やレクチャーをしたり、“だがしや楽校”を展開するためのサポートやコーディネート活動を行ったりしている筆者（山口充夫：だがしや楽校コーディネーター・山形県米沢市在住）が主催して“だがしや楽校”を開きました。

筆者にも“だがしや楽校”に対する「こだわり」があります。その「こだわり」とは、“だがしや楽校@発祥の地”を大切にしたいという思いです。山形県内はもとより、全国各地に“だがしや楽校”が広まった今だからこそ、その「こだわり」はますます強くなったような気がします。

そのためでしょうか、“だがしや楽校”発祥の地と言われる山形市の駄菓子屋“はじめや”の前や“はじめや”に隣接する“みなみ公園”で“だがしや楽校”が開かれますと、その取材に向かう米沢から山形までの移動の間は、いつもにも増してワクワク・ドキドキ感が高まります。

山形駅から南へ約2km。住宅地の中に駄菓子屋“はじめや”と“みなみ公園”はあります。“みな

み公園”の中央には大きな池があります。また、公園北側には市民プールもあり、夏には大勢の子どもたちでにぎわいます。池の南側には、木立の下でゆったりと遊ぶことができる公園が広がっています。駄菓子屋“はじめや”は、“みなみ公園”の西側・池の南西側にあります。



写真は今年（2010年）6月撮影の“みなみ公園”。左の写真の右側に見えるのが“はじめや”です。

松田道雄さん（だがしや楽校発案者、高千穂大学教授）が、駄菓子屋の研究をされた時、山形市内のいくつかの駄菓子屋を訪ねています。松田さんの著書“駄菓子屋楽校”（2002年、新評論）では、その中から“佐々木商店”や“垂石商店”が紹介されています。

“佐々木商店”は、いきなり2ページ目に写真で登場します。また、本文中では「山形市内でも（駄菓子屋としては）一番の“老舗”」と紹介しています。“垂石商店”は「おじいちゃんの駄菓子屋さん」として紹介しています。

こうした駄菓子屋は、子どもたちにとっては楽しい遊びの場です。松田さんは、そんな駄菓子屋を拠点にした放課後の遊びの中にも、学校とは異なる学びや教育的意義があることを発見します。そこで、かつての放課後の駄菓子屋（子どもみせ）を取り巻く遊びの場を「学び屋」という視点で“駄菓子屋楽校”と名付けました。

“だがしや楽校”は、松田さんが駄菓子屋研究と共に始めた社会的実験・教育的実験です。駄菓子屋が持っている教育的意義を現代に活かすために提案したのが“だがしや楽校”です。最初は、松田さんと数人の仲間の人たちが開いた小さな集い、それが“だがしや楽校”だったのです。

場所は、松田さんが駄菓子屋の研究で訪ねた駄菓子屋さんのひとつ“はじめや”に隣接する“みなみ公園”でした。だから、駄菓子屋“はじめや”と“みなみ公園”が“だがしや楽校・発祥の地”と言われるのです。

それにしても、ここは“だがしや楽校”を開くのにピッタリな場所です。駄菓子屋“はじめや”には、いつも子どもたちが集います。春は桜が咲き誇り、夏は緑がいっぱいになり、秋は紅葉が美しい“みなみ公園”にも、毎日のように子どもたちの歓声が聞こえます。そう、ここは“だがしや楽校”がいつも開かれているような場所です。

1968年から始めたという駄菓子屋“はじめや”ですが、今ではすっかり老舗の駄菓子屋さんになりました。（右の写真は今年2010年7月撮影の“はじめや”です）



そんな“はじめや”のおばちゃん・山川昭子さんは、松田さんから聞いた“だがしや楽校”に賛同します。そして何より、今でも山川さんが元気に駄菓子屋を営んでいることが、この場所で“だがしや楽校”を開くことにつながりました。

今日も子どもたちと体当たりで向き合う山川さん。それは駄菓子屋という商売を遥かに越えたものを感じます。自分の思いをそのまま子どもたちにぶつける山川さん。これが「小さなおみせ」の「自分みせ（店・見せ）」なのです。

駄菓子屋とは、マニュアル化された商売とは根本的に違います。自分の思いでお店を営みます。子どもたちと向き合います。駄菓子屋にマニュアルやルールはありません。

それぞれの駄菓子屋に、それぞれの駄菓子屋のやり方があります。それは人の生き方と同じです。みんなそれぞれの生き方があります。それは他人にとやかく言われるものではありません。

人には、それぞれに持ち味があります。人にはそれぞれ、なんとなく「趣味・特技・遊び・学び・作品」を持っています。それを「みせ（店・見せ）」る集いが“だがしや楽校”です。

だから、“だがしや楽校”にやり方のルールはありません。それぞれ人が持っている可能性・創造性を活かす場が“だがしや楽校”です。それぞれが持っている持ち味・能力を出し合うことで生まれる新たなアイディア・やり方。“だがしや楽校”では、人が持っている創意工夫により、やり方・みせ方が変化・進化していきます。

大人にとっても“だがしや楽校”は新たな生き方を見つける場です。“だがしや楽校”が社会教育としても注目されているのは、このためです。

なんだかんだ言っても、駄菓子屋“はじめや”と“みなみ公園”は、そんな“だがしや楽校”の故郷（ふるさと）です。だから、筆者もワクワクしますし、ホッとするのでしょう。

本当なら、日常的に“だがしや楽校”が開かれて良いはずの場所です。公園があって、駄菓子屋“はじめや”があって、その“はじめや”には必ずと言って良いほど子どもたちが集っている、これ以上“だがしや楽校”を開くのに最適な場所はありません。

さて、“だがしや楽校@発祥の地”では、春から夏にかけて開かれています。でも、駄菓子屋“はじめや”のおばちゃん・山川昭子さんにお聞きしたところ、「子どもたちが『今年はまだ“だがしや楽校”を開かないの？』と言っていますよ」という話でした。なんと、子どもたちは“だがしや楽校”が開かれることを望んでいたのです。

そこで、“だがしや楽校@発祥の地”に強く「こだわり」を持つ筆者（山口）は、普通ならあり得ないのですが、自分自らが主催者となって「この地で“だがしや楽校”を開く」ことを決意します。これも、子どもたちの思いが、筆者を勇気百倍にしたのであります。

筆者が展開している“だがしや楽校普及事業”。その普及のツールとして、“だがしや楽校”を紹介するビデオ番組制作（DVD制作）に取り組んでいた筆者は、その「こだわり」から“だがしや楽校@発祥の地”の映像も制作したいと考えていたことも、筆者が“だがしや楽校@発祥の地”を開くことにした背景のひとつです。

さて、“だがしや楽校@発祥の地”を開くにあたって、ビデオ番組制作（DVD制作）で協力をお願いしている大学生のY nさんにも相談します。Y nさんは、“みなみ公園”で実際に“だがしや楽校”を何回も開いているからです。結果、片桐隆嗣さん（東北芸術工科大学教授）の了解もあり、

Y nさんは友人たちと“だがしや楽校”を開いてくださることになりました。

さて、実際に“だがしや楽校@発祥の地”を開くには、駄菓子屋“はじめや” 山川昭子さんの協力が不可欠です。それで、Y nさんと共に、駄菓子屋“はじめや” 山川おばちゃんを訪ねました。そこで、おばちゃんからお聞きしたのが、先にご紹介した、子どもたちからの「“だがしや楽校”を開いてほしい」という声でした。

“だがしや楽校”を開くまでに、筆者は何度か“はじめや”のおばちゃんを訪ね、打ち合わせを重ねます。その打ち合わせでは、おばちゃんの提案で、山形名物“玉コンニャク”のおみせも出すことになりました。

また、“楽描きだがしや楽校”のRさん・Kさん、大学院生のY yさんも協力してくださることになりました。さらには、鶴岡からAさん（だがしや楽校だがしや倶楽部・代表）たちも駆け付け、おみせを出してくれることになりました。

こうして、子どもたちの“だがしや楽校”への思いと山川おばちゃんの思いと協力、それにY nさんをはじめとする山形県内の“だがしや楽校”仲間の協力によって、今年（2010年）最後の“だがしや楽校@発祥の地”が開かれることになったのです

皆さんの協力で、あらためて感謝したいと思います。



《だがしや楽校 @ 発祥の地》

2010年11月3日当日です。

筆者が住んでいる米沢は朝から雨です。冬型の気圧配置となり、東日本以西では秋晴れになっていますが、北陸地方から北日本にかけての日本海側では、大陸からの季節風と寒気のため、雨模様の天気になっているのです。

山形市（山形県村山地方）の天気予報を見ますと、午後から雨はやみそうですが、午前中を中心に雨が降るとのこと。しかも、日中の気温は10℃程度しか上がらず、肌寒くなりそうで、あいにくの天気となりました。これでは、いくら“だがしや楽校”開催を望んでいたとは言え、子どもたちが集うのか心配になりました。

それでも心配しても仕方がないので、雨降りの中、午前10時すぎ、筆者（山口充夫：だがしや楽校コーディネーター・山形県米沢市在住）は米沢を出発しました。

上山市付近に来ますと、小雨ですが、空はだいぶ明るく感じます。なるほど、同じ山形県でも、米沢に比べて遥かに雪の量が少ない山形市周辺ですので、空の明るさから、チョッピリ天気の回復に期待しました。

お昼前、現地に着きます。駄菓子屋“はじめや”の山川さんご夫妻に挨拶します。続いて、“みなみ公園”を見てみます。“みなみ公園”の木々は、例年よりやや遅い感じですが、紅葉が少しずつ進んでいます。でも、地面は雨で濡れています。



紅葉が進んでいるみなみ公園



みなみ公園から見る駄菓子屋“はじめや”

着いた時には青空が広がりました。しかし、まもなく黒い雲が広がり、一時的でしたが、雨が強く降り出しました。また、時より風も強く吹きました。

それで、山川のおばちゃんと相談の結果、“はじめや”の前で“だがしや楽校”を開くことにしました。

ところで、このような天気にもかかわらず、すでに数人の子どもたちが集まっていたのには、ビックリしました。子どもたちは“みなみ公園”の池で釣りをしていました。(右の写真)

子どもたちから元気をもたらした瞬間でした。「なにがなんでも、やっちゃおう」と思った瞬間でした。筆者(山口)は、早くも子どもたちから学んだのでした。



すでに、おばちゃんは“玉コンニャク”を仕込んでいました。いいニオイが漂っています。まもなく、スタッフの皆さんが集まります。そして準備を始めました。

まだまだ“だがしや楽校”開始までには時間があるにもかかわらず、次々に子どもたちも集まってきます。

準備を手伝ってくれる子どもたちもいました。女の子さんは、自らサツマイモ切りを手伝いました。ちょっと硬いサツマイモは、切るのが大変です。でも、その女の子さんは、学生さんたちに見守られながら、一生懸命切っていました。これだけ今の子どもたちもできるんです・・・そんなことを教えてもらった瞬間です。



サツマイモ切りを手伝う女の子さん



池の向こうに虹が見えました

午後1時近くなりますと、ますます子どもたちが集まります。こうなると、肌寒さも、天気のこと、すっかり忘れてしまいます。子どもたちの元気な歓声が飛び交います。

やがて、子どもたちが行列を作り始めます。鶴岡のAさんが持ってきたガチャポンのおみせに行列を作ったのです。考えてみますと、“だがしや楽校@発祥の地”では、ガチャポンは珍しいかもしれません。



「はやく午後1時にならないか」と催促する子どもたち。ついには、子どもたちによるカウントダウンが始まりました。

「10・9・8・7・6・5・4・3・2・1・ゼロ！！」

▼ガチャポン

鶴岡Aさん（だがしや楽校だがしや倶楽部・代表）のおみせです。



ガチャポンの中には、クイズ・なぞなぞ・迷路が書かれている紙が入っています。それに答えますと、ご褒美がもらえます。物珍しさからか、一気に盛り上がったおみせです。

▼玉コンニャク

駄菓子屋“はじめや”の山川おばちゃんが美味しく仕込んでくれた玉コンニャク。チョッピリ肌寒い日には、アツカ〜イ玉コンニャクはピッタリです。見事に完売しました。



玉コンを串に刺すKさん

これが山形名物・玉コン

子どもも大好きです

▼焼きいも・・・

肌寒くなりつつあるこの時期、2年前“みなみ公園”にて開いた“だがしや楽校”で好評だった“焼きいも”のおみせを、学生・大学院生のY nさん・H aさん・Y yさんたちの協力で開きまし

た。スーパーから借りた芋煮用のカマドの中で火をおこし、サツマイモなどを焼きます。先に写真で紹介しましたが、硬いサツマイモ切りを手伝ったり、火の様子を見守る子どもたちもいたりして、大人気のおみせになりました。

ところで、焼いたのはサツマイモだけではありません。



火をおこすRさん



はじめに焼いたのはマシュマロです



玉コンを焼いています



パンを焼いています



駄菓子屋“はじめや”で売っている焼きイカも焼いています。ほかにジャガイモも焼きました。



程良く焼けたサツマイモ、筆者もいただきましたが、甘くて、ホクホクで、とっても美味しかったです。

サツマイモ・ジャガイモ・マシュマロは学生さんたちが準備しました。それにしても、子どもたちの奇想天外ぶりには、筆者も脱帽です。まさか、玉コン・焼きイカ・パンまで焼くとは……。こういう自由な発想を、私たち大人は、子どもたちから学ぶ必要がありそうです。

▼けん玉・お手玉

“だがしや楽校@発祥の地”ではすっかりお馴染みになっている近所のおばあちゃん・Sさんによる“けん玉・お手玉”のおみせです。



左の女の子さんは連続 21 回の自己新記録を達成。写真はその瞬間です。



お手玉の妙技を披露するSさんです



◎ちょっとひと息

子どもたちの生き生きとした表情に、筆者も大盛り上がり。こんなに子どもたちが集うとは思いませんでした。そこで、興奮を静めるために、ちょっとひと息。全体の様子を眺めてみることにしましたが・・・。



駄菓子屋“はじめや”には大勢の子どもたちが集いました



どういふわけか、集合写真です



◎駄菓子屋“はじめや”のおばちゃん

駄菓子屋“はじめや”のおばちゃん・山川昭子さんをご紹介します。「42 年もやっているとおばちゃん、まだ店しつたが」と言いながら、子どもや孫を連れてくる人もいます」と語るおば

ちゃん。その表情は、子どもたちに対する愛情がいっぱいです。



東京からの見学者に「駄菓子屋を始めて42年目」と答えるおばちゃん



玉コンを串に刺すおばちゃん



だがしや楽校の様子を見守るおばちゃん



▼消しゴムスタンプでハガキ作り



先月（2010年10月）の鶴岡と酒田での“だがしや楽校”でも大好評だった“消しゴムスタンプでハガキ作り”のおみせです。Y nさんたち東北芸術工科大学・学生さんによるおみせです。



とうとうハガキ用の紙が完売するほどの人気ぶりです。そこで、ハガキ作りが出来なかったお子さんには、がってんノートにスタンプしてもらいました。

▼松ぼっくりツリー作り

先月（10月）の“YAMAGATAアーツ・ラウンド”でもご紹介しました、Rさん主催の“楽

描きだがしや楽校”による“松ぼっくりツリー作り”のおみせです。



これらも大人気で、子どもたちは真剣な表情で取り組んでいました。

いつものように、ビデオカメラを回し続けた筆者でしたが、あまりに盛り上がりぶりに、天気や肌寒さを完全に忘れてしまいました。そして、アツと言う間に、おしまいの時刻である午後3時となりました。子どもたちのパワーに圧倒された2時間でした。



《振り返り》

後片付けが始まりました。すると、子どもたちが片付けのお手伝いを始めました。例えば、数人の女の子は、たくさんある消しゴムスタンプを1個ずつ丁寧に箱へ入れていきました。

学生さんや大人たちが手伝いを指示したわけではありません。気が付いたら、当たり前のように子どもたちが自主的に手伝いを始めていたのです。感激しました。

山川のおばちゃんは「天気が悪かったので、来てくれた子どもの数はいつもより少なくなりました」と話されましたが、これだけ大勢の子どもたちが集まってくれたことに、筆者は感謝するばかりです。子どもたちが“だがしや楽校”開催を望んでいたとは言え、本当に嬉しくなりました。

きょうの“だがしや楽校”では、至る所で、子どもたち同士、子どもたちと学生さんや大人たちとの交流風景が見られました。

ただでさえ、人と人とのかかわりが薄くなったと言われる現代に於いて、普通ならあり得ないと言える子どもたちと学生さんや地域を越えた大人たちとが交流できる場、それが“だがしや楽校”の魅力のひとつです。

学生さんがきょうの“だがしや楽校”を振り返って「きょうは子どもたちとじっくり時間をかけて交流することができました」と言いました。なぜなら、混雑したわけでもなく、適度なにぎわいだったからです。ここが単に来場者数や参加人数で評価するお祭りやにぎわいイベントと“だがしや楽校”との違いです。

“だがしや楽校”では「どれだけの人と出会ったのか」といった数字ではなく、どのような出会いがあり、どのような交流が行われ、どのような付き合いにつながったのか、という「人と人との

つながり」を大切にします。

毎日が“だがしや楽校”のような場所で、それぞれの人が、自分の持っているモノを持ち寄って開いたのが、きょうの“だがしや楽校@発祥の地”でした。ですから、開くまでには、それなりの準備はありましたが、大それた準備ではありませんでした。

ガチャポン、けん玉・お手玉、消しゴムスタンプでハガキ作り、松ぼっくりツリー作りの各おみせは、そのほとんどがすでにあるものを持ち寄ったものです。また、玉コンニャクは“はじめや”のおばちゃんが取引先から仕入れてくださったもの。焼きいもについては、材料やカマドの準備はありましたが、これも経験がありましたので、そんなに大変な準備ではありませんでした。

つまり、自分が持っているものを持ち寄ることで、そんなにお金をかけずに、大変な準備も必要としないで開き・集うのが“だがしや楽校”です。

だからこそ、普段ならあり得ない世代を越えた交流ができるのです。また、自由な空間の中で、じっくり交流することで（交流の質を高めることで）、創意工夫が生まれ、創造豊かな人間形成につながるのです。それも楽しい雰囲気の中で・・・。

きょうの“だがしや楽校@発祥の地”は、最小限の費用と準備の中で、こんなにも子どもたちが集い、こんなにも楽しい“だがしや楽校”を開くことができたのです。

私たちは、高度経済成長の中で、人間として大切なものを見失ってきたのではないのでしょうか。それは、子どもたちが持っている人間としての純粋な心です。だから、私たち大人は、子どもたちから学ばなければならないのです。なぜなら、私たち大人にも子ども時代があったからです。子ども時代があるから、今の自分が存在するのです。

ところが、私たち大人は、子どもたちの純粋な心を「幼い」と称して「駄」であると決め付けました。そして「成長」と称して、いわゆる大人になるための教育を施してきました。

そうした高度経済成長の中での教育は、自分というものを見失うことになりました。

しかし、時代は変わり、高度経済成長に於ける問題が浮き彫りとなり、今では自分を表現できることが求められる時代になりつつあります。

先にもご紹介しましたが、“だがしや楽校”とは、人がそれぞれ持っている「趣味・特技・遊び・学び・作品」を持ち寄って「みせ（店・見せ）」る集いです。つまり、「自分をみせ（店・見せ）る」のが“だがしや楽校”です。

そのためには、自分を見つめ直すことが必要になります。つまり、「自分をみる」・「自分発見」につながるのが“だがしや楽校”です。自分を発見することは、結局は自分を表現することにつながります。これが「自己表現」です。それは、もちろん「自己主張」ではありません。

「自己表現」は自分を大切にすることにもつながります。自分を大切にし、楽しく生き生きとしている人に、子どもたちは集うのです。これが、ある意味、子育ての原点です。

そういう人には大人も集います。ここに、現代が失いかけている人と人とのつながり・コミュニティが形成されていきます。すなわち、自分を磨くことが、子育ての原点であり、人と人とのつながりの原点です。自分を磨くことは、社会教育にもつながります。

これまでご紹介してきたように、子どもたちは、単に“だがしや楽校”に参加していただだけでなく、自分たちで遊びを生み出すなど創意工夫を展開、また開始前の準備から終了後の後片付けまでの手伝いを率先して行っていました。これは、“だがしや楽校@発祥の地”である駄菓子屋『はじめ

や』周囲の子どもたちに於いて、“だがしや楽校”が浸透している証と言えます。

加えて中学生も集い、“だがしや楽校”が世代を越えたコミュニケーションであることも裏付けられました。

結果、冬期間に入る前のこの時期に“だがしや楽校”発祥の地にて“だがしや楽校”を開催したことで、この地域への“だがしや楽校”浸透を、さらに推しはかることができ、来年（2011年）への展開にもつながったと言えます。

最後に、“だがしや楽校@発祥の地”に集い・遊び・手伝ってくれた子どもたちに感謝します。また、開催のために協力して下さったすべての方々に感謝して、報告をお終いにします。

また来年（2011年）の“だがしや楽校@発祥の地”を楽しみにしましょう。
ありがとうございました。

子どもたちの生き生きとした表情・楽しそうな表情、おみせを出して下さった学生さんや山形の皆さんの笑顔と楽しい会話・・・みんな、だがしや楽校の宝です。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター

おきたまラジオNPOセンター

関係するホームページ（ウェブサイト）紹介

未来を築く子育てプロジェクト

<http://www.sumitomolife.co.jp/child/index.html>

第4回 未来を築く子育てプロジェクト 表彰式

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110214nikki.html

だがしや楽校

<http://okitamanpo.web.fc2.com/dagashiya.html>

だがしや楽校 オン・ザ・ウェブ

<http://www.dagashiya-gakko.com/>

公益のふるさと創り鶴岡

<http://www8.plala.or.jp/koekitsuruoka/>

おきたまラジオNPOセンター

<http://okitamanpo.web.fc2.com/>